

駅南だより

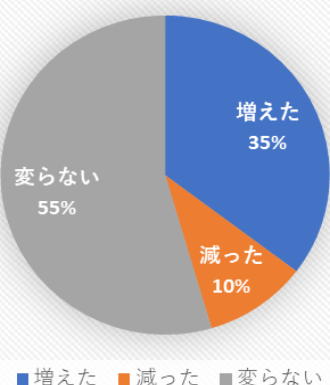
2021年9月号 Vol.72

いつもは年末に実施している利用者アンケート。状況が安定しない中で、今回は8月月初に実施しました。206名の方に回答していただきました。ご協力ありがとうございました。今号ではその結果の一部をご報告します。

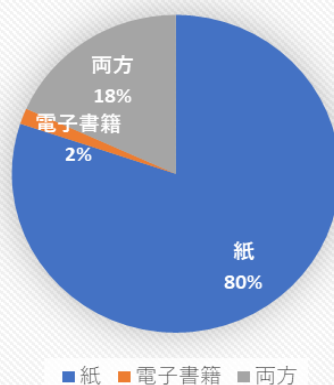
利用者アンケート実施報告

今回は新型コロナ前後でどのように図書館利用状況が変化したか、利用者の皆様の読書環境がどのように変化したか、またこれからの図書館サービスに期待されることについて、さらにはこの館の図書館運営についての評価をアンケート形式でお聞きしました。

新型コロナ禍前後での読書量の変化



読書するのに利用する媒体



読書量の変化については「変わらない」が55%、「増えた」が35%で、3割強の方が生活の中で読書量が増えたとの回答でした。その中でどのようなツールで読書をしていらっしゃるかについては、「紙の本」が80%、「電子書籍と併用」されている方も18%いらっしゃいました。特に20代の方では「併用」されている方が38%にのぼり、仕事や学校での資料閲覧スタイルが変化していると感じます。「今後、来館しなくても利用できる図書館サービスが充実されるなら、どのようなものを期待されるか」については、46%の方が「電子書籍の貸出」を希望され、「予約資料の宅配サービス」「オンラインイベント」がそれぞれ14%。「その他」では「おすすめ本の紹介」などのご提案をいただきました。

【総合的満足度】

	満足	やや満足	やや不満	不満
2019年度	66.0%	31.4%	2.6%	0.0%
2021年度	62.8%	35.0%	2.2%	0.0%

総合満足度では「満足」と「やや満足」で97.8%と前回とほぼ同様の高い評価をいただきました。臨時休館や再開後も閲覧席等一部利用制限などご不便をお掛けしていることもあり、「満足」が「やや満足」にシフトしている傾向も見られます。今後は新型コロナ感染防止を最重点としながら、駅前情報拠点として便利に利用していただけるよう努力していきます。

自由意見としては閲覧席についてのご意見、新規のものを増やしての資料の充実等のご意見をいただきました。この状況下での開館に対し励ましのお言葉も賜りました。このようなお言葉を励みに、またいただいたご意見を参考として、よりよい地域の図書館づくりをしてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

市川のあけぼの

市川の歴史について、
数回にわたってお伝えします。

⑥市川と下総国分寺

天平7(735)年～同9(737)年にかけて、わが国では「天然痘(＝疱瘡)」という疫病が蔓延しました。当時の総人口の25～35%にあたる100～150万人が死亡したと伝えられています。天然痘は幸いにも天平10(738)年1月には終息しましたが、同12(740)年8月に大宰府で反乱が起こります(藤原広嗣の乱)。こうした事態に対し、聖武天皇は仏教によって疫病を鎮め、国家の安寧を願う「鎮護国家思想」に傾倒していきました。

天平13(741)年「国分寺建立の詔」が発せられ、全国に「国分寺(金光明四天王護国之寺)」、「国分尼寺(法華滅罪之寺)」が建立されました。下総国(＝現千葉県の一部)の国分寺は現在の市川市国分に建てられました。現在ほぼ同じ場所に真言宗豊山派の下総国分寺が建っています。発掘調査の結果、創建時の塔・金堂・講堂の基壇が発見されており、国分寺としては珍しい「法隆寺式伽藍配置」を有しています。昭和42(1967)年に国の史跡に指定されました。尚、国分尼寺は、国分寺の西北約400mの地に建てられており、現在は公園になっています。

参考文献：

『下総国分寺のはなし』 山路直充／著 市川博物館友の会 1996年

『市川市史 歴史編Ⅲ まつりごとの展開』 市川市歴史編Ⅲ編集委員会／編 2019年



館長の本棚

館長が選ぶおすすめの本を、
コラムとともに紹介します。

キノコ文学召しあがれ

これからの季節に旬を迎える「キノコ」。その形状・質感・色彩から“かわいい！”などという声も上がり、キノコブームと言われて久しいのであります。このブームの火付け役の一人が飯沢耕太郎さん。飯沢さんは写真評論の大家といってよい方です。その飯沢さん、2000年頃にベトナムでキノコ切手を目にされて以来すっかりキノコにハマってしまったのだとか。その時見た切手がベニテングタケなどの毒キノコをあしらったものだったというから、そりゃあ中る。『きのこ文学名作選』、『きのこ文学大全』といったきのこ文学本から、終いには『きのこのチカラ きのこの生きる方のすすめ』という“啓発本”まで出す始末。

奥山に淋しく立てるくれなゐの木の子は人の命とるとふ

『きのこ文学名作選』、『きのこ文学大全』を紐解けばいかに古来文人たちが如何にキノコに魅せられてきたかがわかります。上は正岡子規の一首。畏怖しつつもその存在に惹かれてしまう不思議を詠んでいます。こりゃあ、中ってる。

夢における願望は菌糸体からキノコが飛びでて来るのに似る、なんてことをフロイトさんも『夢判断』でおっしゃっていたような。おいしい旬のキノコを食しつつ、キノコ文学を召しあがれ。中らないようにねっ。



『きのこ文学名作選』
飯沢耕太郎／編 港の人 (X918 ㄱ)

『きのこ文学大全』

飯沢耕太郎／著 平凡社新書 (V902.0 1)

『きのこのチカラ きのこの生きる方のすすめ』

飯沢耕太郎／著 マガジンハウス (657.8 1)

『日本の毒きのこ フィールドベスト図鑑』

長沢栄史／監修 学研 (657.8 2)

『きのこ 新装版山溪フィールドブックス』

— 2 — 本郷次雄／監修・解説 山と溪谷社 (474.8 ㄱ)

司書たちの休息

駅南の司書たちの日常や、好きなこと、
おすすめなどを伝えます。

私はマリモを飼っていた。本物のマリモではなく、スマートフォンのアプリの中で育つ、デジタルのマリモだ。当時、仕事で悩んでいた私は、人もまばらな終電に揺られながら、たまたま目についたそのアプリをなぜかダウンロードしていた。水を替える以外に何もできないのだけれど、それでも、お世話をしていると徐々に愛着がわいてきた。マリモは私のてのひらの中で少しずつ成長し（恋人に「怖すぎる」と言われて喧嘩になった）、画面の1/2ほどの大きさになった頃、私はこの図書館に転職した。充実した日々を過ごす中で、私はマリモのことを忘れていった。先日、ふと思い出してアプリを開くと、画面には「マリモは枯れてしまいました」と表示されていた。背景が黒い壁紙になっていると思ったけれど、違った。それは、私に忘れられても健気に成長し、画面いっぱいの大きさになっていたマリモだった。マリモの名前は「おつかれ」だった。私は星になったおつかれに心の中で謝りながら、アプリを消去した。ほんのすこし泣けた夏の夜だった。

展示・イベント報告

七夕

7月1日～7日まで、館内で七夕の笹を飾りました。短冊は全部で127枚でした。



夏休み一日図書館員

7月30日の館内整理日に、午前中に小学生、午後に中学生を対象に行いました。ブックポストに入った本の返却や、予約本の回収、届いた新聞の処理など、2時間でたくさんのお仕事体験をしました。参加者全員に書いてもらったおすすめの本も、駅南のFacebookにて日替わり展示として紹介しました。小学生4名、中学生3名参加。



はてなポストにきいてみよう！

8月のえきなんギャラリー「意外と近くにいるかもね」の関連企画として、生き物や自然についての質問を入れる「はてなポスト」を館内に設置し、NPO行徳ほごくらぶの方に答えていただきました。子どもたちの「なぜ？」に対する、丁寧な回答に、私たちも改めて生き物や自然について学ぶことができました。質問と回答はギャラリーに随時張り出し、全部で18の質問をいただきました。



編集後記

作家、宮尾登美子さんは随筆に、夏のあいだじぶんがどれだけ猛烈にそうめんを食べるかをよく書いていました。好物だけあって、そうめん鉢をしまうときに感傷はありません。「おつかれさま。また来年」という感じで清々しい。ポップソングの世界では、決まってせつない夏の終わりですが、秋の気配が運んでくるのは、高い空と、しんみりした心地良さです。石焼～き芋～お芋だよ、の声にはまだ早く、だけど、気づくと深く長くなっていく夜。おやおや、本を読みたくなってきませんか？えきなんでお待ちしております。（副）

市川市市川駅南口図書館（指定管理者（株）ヴィアックス）

〒272-0033 市川市市川南1丁目10番1号 I-link タウンいちかわ ザ タワーズ ウエスト3階

【TEL】 047-325-6241 【HP】 <http://www.ekinan-lib.jp>

こころとからだの健康

第2回「あなたのまわりに『社会的孤立』はありませんか？」

和洋女子大学看護学部
精神看護学・准教授 寺岡征太郎先生

社会的孤立ってなに？

社会的孤立とは、家族や地域社会とのつながりがほとんどなく、他者とのつきあいが著しく少ない状況のことを指します。このような状況では、こころやからだの健康状態を良好に保つことが難しく、海外の報告¹⁾によると、社会的孤立によって死亡率が30%近く上昇するとも言われています。日本の社会的孤立の割合が諸外国の中でもトップであり(OECD;経済協力開発機構調べ)、内閣官房に「孤独・孤立対策室」が設置されました。このことから、社会的孤立の問題が、深刻な状況にあることを知ることができます。

1)Holt-Lundstad J, et al. Loneliness and social isolation as risk factors for mortality: a meta-analytic review. *Perspect Psychol Sci*, 10, 227-237, 2015.

社会的孤立が生まれる大きな要因は、**社会の変化**にあると言われています



人と直接的なつながりがなくても生活に困らない



働き方の多様化



単身世帯の増加



社会とつながれる居場所の少なさ



人とのつながりを望まない価値観



家族のあり方の変化



社会的孤立は「生きづらさ」に直結します

辛さや不安、悩み事があるとき、身近に相談相手(話し相手)がいるだけで、なんとなく安心できる場合もあるでしょう。孤立で誰にも相談できない、話し相手がいないという状況を少なくするための工夫が必要です。さまざまな人が支え合う地域づくり、居場所づくりに、ぜひ関心をもっていただきたいと思います。

*自ら相談に出向き、孤立から抜け出すための行動がとれない方もいらっしゃいます(認知症や精神疾患をお持ちの方、引きこもりや不登校にある方、家庭内暴力や虐待などがあり声をあげにくい方など...)。専門的な支援が必要となるケースもあり、周囲のサポートが欠かせません。

孤独・孤立対策の情報(<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/tokushu/koritsutaisaku.html>)
首相官邸のHPです。孤独・孤立対策として、自殺対策、生活困窮者支援、児童虐待防止対策、子供のSOSへの対応、性犯罪・性暴力、フードバンク、住まいの支援などの情報を入手できます。

いちかわみんなのほけんしつ(<https://www.facebook.com/ichikawa.hokenshitsu/>)
暮らしの中で誰に相談したらいいかわからないこと、病院に行くほどではない、ちょっと誰かと話したいことがある時に、気軽に立ち寄ることができる居場所の一つです。